



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mail:info@kodomonono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
隔月発行会報
(2025年 5月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の1枚＞



2025年度の子森通信第1号をお送りします。

前号でご案内したように、子森通信は今年度より隔月（奇数月）の発行となります。

その分、充実した内容づくりを目指したいと思います。引き続きよろしくお願いします。

今月号からリレーエッセイのコーナーで、「東北復興グリーンウェイ」の活動成果の検証を
参加園からのエッセイによって1年間かけて実施したいと思います。ご覧いただければ幸いです。

写真は、今年も季節を忘れずに発芽してくれたどんぐりです。

（目次）

1. J P 子どもの森づくり運動 2025年度オンライン講座のご案内
2. 「東北復興グリーンウェイ」のとりまとめ
3. リレーエッセイ（2025年5月号）－共にふりかえる「東北復興グリーンウェイ」（その1）－

日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援
のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



ぽすくまの動画はこちら

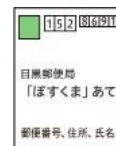


YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは
郵便局のキャラクターです。
ぽすくまは、くまのぬいぐるみの
郵便屋さんです。仲間たちも
みんな手紙が大好きです。

お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。
返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. J P子どもの森づくり運動 2025年度オンライン講座のご案内

J P子どもの森づくり運動では、今年度も保育・幼児教育をサポートするオンライン講座をご案内します。

詳細は、ホームページでご案内しておりますのでご参照ください。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

【自然体験活動サポート・オンライン講座（参加費無料）】

自然体験活動を推進するために、活動における様々なリスクに対応する実践的なリスクマネジメント講座を開催します。詳細は、ホームページで案内中です。

- ・テーマ：自然体験活動における実践的なリスク管理
- ・開催日：2025年8月8日(金)14:00～15:30
- ・講師：札幌大谷大学短期大学部 教授 田中 住幸先生

（講師からのメッセージ）

保育者養成の仕事とあわせて、幼稚園や保育所への自然体験活動の出前活動も行っています。自然体験や保育の安全対策に関する活動にも取り組んでいます。



※参加申し込み：右のQRコード、及びホームページからお申込みください。

【園庭緑化サポートオンライン講座（参加費無料）】

「園庭緑化運動」では、園庭緑化の普及と活動をサポートすることを目的に、今年も活動の第一線で活躍する講師を迎えたオンライン講座を企画しました。今年も充実した講座内容となりました。是非、ご参加ください。

●6月講座

- ・テーマ：「園庭緑化のはじめ方～子どもたちと園職員みんなではじめる園庭緑化へ向けて」+ 園庭緑化についての質問コーナー
- ・開催日：2025年 6月16日(月)14：00～15：30
- ・講師：田園調布学院大学大学院 准教授
国際校庭園庭連合日本支部 代表 仙田 考先生



※参加申し込み：右のQRコード、及びホームページからお申込みください。

●8月講座

- ・テーマ：子どもたちのために園庭に植えたい植物
- ・開催日：2025年 8月22日(金)14：00～15：30
- ・講師：むぎの穂保育園 理事長 出原 大先生



※参加申し込み：右のQRコード、及びホームページからお申込みください。

●10月講座

- ・開催日：2025年10月23日(木)14：00～15：30
- ・講師：お茶の水女子大学
「お茶大アカデミック・プロダクション寄附講座」 教授 宮里 暁美先生

※参加申込み：後日、ご案内します。



2. 「東北復興グリーンウェイブ」のとりまとめ

「東日本大震災」の緑の復興を目指して、2012年から活動を推進してまいりましたJP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」（以下「東北復興グリーンウェイブ」）の活動が、2026年5月で終了します。活動には、参加園の保育者と子どもたち、そして日本郵政グループの皆さんを代表とする活動を支援する多くの方々が参加してくれました。

この長期に渡る復興支援活動で、わたしたちはどのような成果をあげることができたのでしょうか。活動を終了するにあたり、2025年度の1年間をかけて、活動にご参加いただいた方々と共に活動をふりかえりたいと思います。ここでは活動のふりかえりにあたり、まず、これまでの東北での活動を3期に分けてとりまとめてみました。紙面の都合で、ご紹介できたのは活動のほんの一部です。詳細は、ホームページでご紹介しておりますので、この機会にあらためてご覧いただければ幸いです。

【第1期】活動の基盤づくり（2014年～）

ー岩手県山田町、宮古市での植樹活動ー

「東北復興グリーンウェイブ」の活動の基本形は、山田町と宮古市の参加園の皆さんと共に、試行錯誤の中で構築されました。

活動のテーマソング「♪どんぐりえがお」も、山田町の保育者と共に作られ、活動のアンバサダーである「どんぐり〜ず」によって全国の参加園に伝えられました。



※山田町での
植樹活動風景

※宮古市「あかまえこども園」
での植樹活動風景



【第2期】活動の拡がり（2016年～）

ー福島県伊達市での活動ー

植樹活動が福島県に拡がり、福島県伊達市の「霊山三育こども園」と「伊達こども園」の園庭に、全国の参加園が育てた東北のどんぐりの苗木が植えられました。



※霊山三育こども園
での植樹活動風景

※伊達こども園での
植樹活動風景



【第3期】活動の継続（2021年～）

ー岩手県大槌町での活動ー

大槌町「つつみこども園」のご調整によって、大槌町の支援と継続的な植樹地を確保することができ、東北での植樹活動の継続体制が構築されました。



※大槌町での
植樹活動風景

【活動の評価】

「東北復興グリーンウェイブ」は、多くの権威ある環境活動アワードによって評価されました。

- 2013年「第8回ロハスデザイン大賞2013」大賞受賞
- 2014年「生物多様性アクション2014」グリーンウェイブ賞受賞
- 2015年「グッドライフアワード」環境大臣賞受賞 ●2019年「こども環境学会賞」こども環境活動賞受賞

3. リレーエッセイ（2025年 5月号）ー共にふりかえる「東北復興グリーンウェイブ」（その1）ー

「東北復興グリーンウェイブ」の活動は、東北のどんぐりを拾って参加園に届け、送り返された苗木を地元の森に植える「東北の参加園」と、東北から届けられたどんぐりを苗木に育て、送り返す「全国の参加園」の子どもたちが、“どんぐりの絆”で結ばれて推進されています。ここでは、それぞれの園からのメッセージによって、13年間の活動を共にふりかえりたいと思います。

➤ 東北の参加園からのメッセージ ～「東北復興グリーンウェイブ」13年間をふりかえて～

山田町第一保育所 園長 湊 希

早いもので13年になります。過ぎた今だから早いと感じますが、一日一日を必死に過ごしていました。未曾有の災害を経験し、何事もない何事もおこらない日々の幸せを痛感していました。

その時に東北復興グリーンウェイブの活動の話をいただき、子ども達が大人になった時、何を残してあげることができるのか、人と人を繋げられるのか…。そのようなことを考えました。大きいことも目に見えて感じるようなことも出来ないけれど、少しでも子ども達の未来に希望がさせば。



今の子ども達は震災を知りません。活動のたびに話をして聞かせていました。語り継ぐ機会にもなっていました。1年目の子ども達も大きく成長しました。どんぐりの木も大きく成長しました。全国の子とも達とも繋がる事ができました。笑顔もたくさんみれました。本当にありがとうございました。

次は私たちが、世界で大変な思いをしている子ども達や日本で起きている災害で苦しんでいる子ども達に何かをしていく番だと思っています。そして、子ども達が大人になった時、そのような気持ちを持つことが出来る…そんな大人に育てほしいと思いながら保育しています。平和な世界で子ども達が過ごせますように。

13年間ありがとうございました。

➤ 全国の参加園からのメッセージ～決してあきらめることができない命の深さ～

認定子ども園大野幼稚園 園長 藤 兼量

東北復興グリーンウェイブを振り返って見ると、様々な問題が見えてきます。震災当初は、何か出来ることをしなければという思いに駆られてがむしゃらに突き進んだ気がします。その中で子森ネットの原点である『子どもと一緒に森をつくる』活動の意味が問われた12年でした。被災地の状況は年々変化を続け、新たな問題も発生して来ます。



何度か被災地へお伺いをさせていただく中で、たくさんの地元の方々と知り合い、それぞれの苦悩の現状を教えていただきました。その中で学んだことは、『決してあきらめることができない命の深さ』を抱えて生きる姿勢に他なりません。特に山田町で出会った先生方と共に作った曲の「♪どんぐりえがお」は、『生きる勇気』を振り起こされる名曲だと思います。自園の保育の中でも大切に歌い続けて行きたい曲です。宮古や大槌で出会った先生方も『決してあきらめることができない命の深さ』を抱えて生きるバイタリティー溢れる方々ばかりです。

この素敵な方々と出会ったことによって、私の中で変化が起きてきました。それは『子どもと一緒に森をつくる』ことから『子どもが主体的に森をつくる』活動へと展開されて来ました。言い換えれば子どもたち一人ひとりが主体的に自然と向き合う活動であるべきだと思うのです。今年も3本岩手県の苗木が育ちましたので『お見送り会』を計画しています。大野幼稚園の子どもたちも『決してあきらめることができない命の深さ』を抱えて生きる勇気を獲得してほしいものだと思います。